

実践 5

伝統行事を見つめ、地域を考える生徒の育成

－祝い餅づくりを通したE S Dの取組－

一宮市立葉栗中学校 宇佐美 徹

1 はじめに

開かれた学校づくりを進めるために、家庭や地域と協力し、連携を深めることが重視されている。また、生徒の育成に関しては、自分の生まれ育った地域を理解し、地域や社会に貢献しようとする能力や態度を培うことが重要な課題である。そこで、連携や能力・態度の育成を図るために、E S Dの視点を学習に取り入れ、自分との関係を重視しながら地域事象を理解させ、地域に生きる人々の願いや思いにまで迫ることが必要であると考えた。

本校では、昭和 22 年の学校創立以来続く「祝い餅づくり」という伝統行事があるが、長年続くがゆえに、田植えや餅つきなどの活動面が重視され、地域との連携や、地域の理解を促すという視点が軽視されがちとなっていた。E S Dの視点を取り入れることにより、生徒の学びをより主体的なものとするなどして「祝い餅づくり」を見直すことが地域連携、地域理解につながるものとする。

2 研究の目的

本校では、昭和 22 年の学校創立以来、感謝と卒業の祝いの気持ちを込めて、2 年生が卒業生に紅白の餅を贈る行事が続いている。学校創立時には、校庭がまだ整備されておらず水田であったため、その水田を利用し、餅米作り・餅つき・紅白の祝い餅作りが行われ、今日まで伝統的な行事として続いている。そこで、地域を巻き込んだ伝統的な行事である「祝い餅づくり」を、田植えや餅つきなどの活動面を重視するだけでなく、E S Dの視点を取り入れ、その目的や意義、卒業生や地域の人々の願いなどを生徒に考えさせ、理解させたいと考えた。そして、「祝い餅づくり」を中心に据えた学習活動を通して、地域社会の良さを考える生徒の育成を目指すことを本研究の目標とした。

3 研究の方法

(1) 「祝い餅づくり」を捉えなおした実践計画作り

行事のみに終わるのではなく、教科との連携を図りながら年間計画を立て、E S Dの視点を位置付けることとした。実践計画の作成にあたっては、以下の項目を重視した。

- ア 「祝い餅づくり」を中心に据え、教科との連携で問題解決的な学習を取り入れる。
- イ 地域とのつながりを重視した計画を作成する。
- ウ 外部へ発信することによって、自らの活動を見直す。

(2) E S Dの視点を取り入れた授業構成

国立教育政策研究所が提示したE S Dの視点表を用いて授業を構成し、実践を行う。行事を中心とする体験活動だけに終わらないように、問題を見つけ、調べ、解決していく過程を取り入れるように、以下の項目を重視した。

- ア 体験活動を重視しながら、活動に関する主体的な調べ学習を取り入れる。
- イ 地域の人々と関わらせることから生まれる、新たな気付きや発見を大切にす。
- ウ 他教科との連携により、新たな課題設定を行う。

4 研究の内容

(1) 「祝い餅づくり」を捉えなおした実践計画作り

ア 昨年度の「祝い餅づくり」

下の表のように、従来の「祝い餅づくり」を見直し、改善すべき点をもとにE S Dの視点を取り入れた実践計画を立てることとした。

<p><従来の「祝い餅づくり」></p> <p>(1) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生に餅を贈ることによって、感謝の気持ちや卒業を祝う気持ちを伝える。 ・「祝い餅」作りを通して、米作りの喜びや苦労を味わう。 <p>(2) 活動計画</p> <p>5月 もみまき（実行委員） 6月 田植え（2年全生徒） 8月 草取り（実行委員） 10月 稲刈り（2年全生徒） 3月 祝い餅つき，祝い餅贈呈式（2年全生徒）</p> <p>(3) 活動の様子</p> <p>P T Aの委員や、地元の農家の方に指導をいただきながら、もち米作りから餅つきまで行い、活動を終えた。活動後に簡単な感想を書かせて、行事のまとめとしていた。</p> <p><改善すべき点></p> <p>① 「祝い餅づくり」の意義を考えたり、伝えたりする場面設定がなされていない。</p> <p>② 米作りに関して調べたり、農家へ取材に行ったりすることが行われておらず、米づくりの苦労や喜びなどを学ぶ場面が設定されていない。</p> <p>③ 先輩から後輩への行事を引き継ぐ場面が設定されておらず、学年間のつながりが無い。</p> <p>④ 学年の行事として捉えており、体験活動中心となるため、その活動の意義を考えさせ、地域を見つめさせる場の設定がなかった。</p> <p>⑤ 他教科との関連を図ったり、主体的に問題解決を行ったりする場面の設定がなかった。</p>	
---	--

イ 本年度の実践計画

昨年度の改善すべき点を生かし、先に示された「E S Dの視点表による整理」「E S Dの視点に立った学習指導を進める上での留意事項」をもとに、以下のように計画を立てて実践を行った。

<p>題材名 「葉栗を見つめよう」</p> <p>学習内容 地域社会を理解し、地域の活動に主体的に関わろうとする態度を養う。</p>														
持続可能な社会づくりの構成概念							E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度							
I	II	III	IV	V	VI	VII	① 批判的に考える力	② 未来像を予測して計画を立てる力	③ 多面的・総合的に考える力	④ コミュニケーションを行う力	⑤ 他者と協力する態度	⑥ つながり尊重する態度	⑦ 進んで参加する態度	⑧ その他
多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性	その他	批判	未来	多面 ○	伝達 ○	協力 ○	関連 ○	参加 ○	他

<第2学年 「葉栗を見つめよう」実践計画>

時期	学 習 活 動	E S Dの留意事項
5月	・「祝い餅づくり」について考える（学活1時間） ・苗田作り・もみまきを通して農家との交流（総合2時間）	C B
6月	・田植えの手順について（学活1時間） ・田植えを通して農家の人との交流（総合2時間） ・ケーブルテレビ番組「葉栗連区」の視聴（学活1時間） （内容：葉栗連区の祭り，伝統芸能など） ・地域に残る祭り，施設，行事，「祝い餅」などについての聞き取り	B B A A・C
7月	・地域調べ 祭り，「島文楽」，「祝い餅」の歴史調べなど	C
8月	・水の管理，除草などを通しての農家との交流（授業外2）	B
9月	・地域調べのまとめ，意見交換，外部発信（ウェブページへ） ・稲作，農業調べ（社会3時間）	C A・B
10月	・稲刈り（総合2時間），脱穀11月（総合2時間） ・明るい人生「七宝の里」（道徳4-(8)郷土愛） ・稲作，農業調べのまとめ，意見交換（社会1時間）	B A・B C
2月	・「伝統」について考える（総合1時間） ・餅つきの手順について（学活1時間） ・明るい人生「校門を掘る子」（道徳4-(7)愛校心）	B・C B A・B
3月	・祝い餅つき（総合5時間） ・「祝い餅」渡し（総合1時間）	B B

※E S Dの留意事項

A：教材のつながり B：人のつながり C：能力・態度のつながり

(2) E S Dの視点を取り入れた授業構成

ア 祝い餅作りの見直し（学活1時間）

5月の学活の時間を利用し、「祝い餅づくり」について考えさせる時間を設定した。2年生生徒全員に、「祝い餅づくりはなぜ行うのか」という質問をした。すると、「葉栗中の伝統行事だから」「3年生の卒業を祝うため」「先輩もやっていたから」などの回答があった。「祝い餅づくり」についての活動は予想できているものの、「続いているからやる」という意見が多く、その歴史や卒業生、地域の人々の願いについて考えることができなかった。そこで「祝い餅づくり」について、卒業生がどのような思いで「祝い餅づくり」に取り組んだのかを聞き取り調査し、行事を見直すことでその意義を考えさせたいと考えた。

資料1 聞き取りの質問事項

「祝い餅つき」について知ろう。

- 1 聞いた人
- 2 何年前に卒業したか
- 3 田植え・稲刈りの思いで
- 4 餅つきの思いで
- 5 祝い餅づくりをどう思うか
- 6 葉栗で残したい行事や祭りは

生徒は身近な人へ聞き取り調査を行った（資料1）。「あまり覚えていない」という回答がほとんどであったが30年以上前に体験した人たちからの聞き取りも含めて回答があった。集められた回答の中には、「卒業生のために…」「伝統的な行事だから…」という言葉も見られたが、やはり当時の苦労や楽しかった思い出が多く見られた（資料2）。

生徒に調査の結果を紹介し、「どんな思いで祝い餅づくりを行ったのだろうか」と問いかけたところ、30年以上も前の卒業生の感想に驚きながらも「卒業生のことを真剣に思っている」「伝統を守ろうと思っている」などの意見が聞かれた。そこで、「伝統とは何か」という課題を設定し、「祝い餅づくり」を通して考えていくことを確認して授業を終えた。

イ 稲作

(ア) 苗田つくり・田植え

地域の人々との交流を図りながら、体験活動を進めるために、PTAの委員や、地域の農家の方に指導をいただきながら、種まきや田植えを行った。以前は苗田に直に種まきを行っていたが、ここ数年は育苗箱に種をまき、苗田で育てる方法をとっている。予想以上に難しい作業で、種のまき方についても、熱心に保護者に聞きながら作業を進めていった。特に田植えについては苗が多すぎないように注意したり、列がゆがんでいないかを農家の人に確認したりしながら進めていった。苗田作りや田植えを、地域の人々との協力で行うことで、地域との関連を意識させることができた。



地域の人から種まきの指導



苗田作り



田植えの様子

(イ) 稲刈り

PTAの委員の方やボランティアの保護者の方々に協力していただき、10月の下旬に稲刈りを行った。鎌を触ったことがない生徒がほとんどであったが、持ち方や使い方の説明を受け、稲刈りを進めることができた。また、刈り取った稲の干し方や、最近は乾燥機で乾燥させることも多いことなどを教えていただくこともできた。体験を終えた生徒の感想には、作業に対して、先輩に対して、保護者

資料2 聞き取り調査の結果

< 3・4の回答 >

- ・あまり覚えていないが、餅を食べたことは覚えている。
- ・男子が餅つき、女子が餅を丸める係だった。
- ・田植えと稲刈りがたいへんだったけど、ついた餅は美味しかった。
- ・田植えの時は泥だらけになっても、餅ができた時はうれしかった。
- ・田植えは前半クラス、稲刈りは後半クラスだった。など

< 5の回答 >

- ・卒業する3年生を送りだす、大切な行事だった。
- ・伝統に触れられた気がしてうれしかった。
- ・餅をもらうことよりも、稲作や餅作りの方が思い出に残っている。
- ・これからも、多くの中学生に体験してほしい。
- ・餅の様に粘り強く生きてほしいという願いが込められている。 など

の方々に対しての思いなどが綴られていた（資料3）。



保護者の方による準備



稲刈り



稲木へ干す様子

資料3 稲刈り後の感想

稲刈りを終えて

稲刈りとはとても良い体験になりました。田植えのとき、まだ小さい稲がとても大きく成長しました。自分達で作った米を先輩方にあげれると思うと、とてもワクワクします。

稲を刈った後の稲穂拾いは、田に落ちている稲穂がものすごく感じて特に一生懸命にやりました。

稲刈りも、稲穂拾いも、とても大変な作業でしたが、先輩方のおかげで、とても楽しく終わることができました。稲刈りも、稲穂拾いも、とても大変な作業でしたが、先輩方のおかげで、とても楽しく終わることができました。

稲刈りも、稲穂拾いも、とても大変な作業でしたが、先輩方のおかげで、とても楽しく終わることができました。

ウ 地域調べ

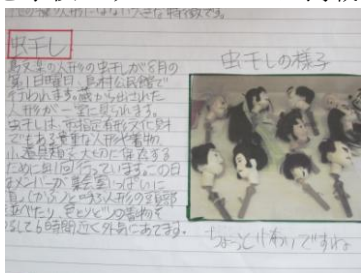
地域社会に愛着をもち、主体的に関わろうとする態度を育てるために、地域の文化や伝統について調べさせ、地域を理解させたいと考えた。

(ア) 課題の設定

葉栗の地域の特色を大まかに理解させるために、ケーブルテレビの番組「葉栗連区」を視聴させた。番組の内容は、葉栗連区に残る祭りやその歴史の紹介、葉栗中学校の「祝い餅づくり」の紹介、伝統芸能の紹介などであった。視聴後の生徒の感想は、「色々な祭りがあるので驚いた」「祭りに近所の人が出ていた」などの感想のほか、「歴史のある祭りが多く」「伝統芸能は続けられるのか」などの感想もあった。それらの感想や、聞き取り調査6 (p.82 資料1) での結果を受けて、地域について詳しく知りたい項目を設定させた。この項目を課題として、夏休み中の調べ学習へと進めていった。

(イ) 調べ学習

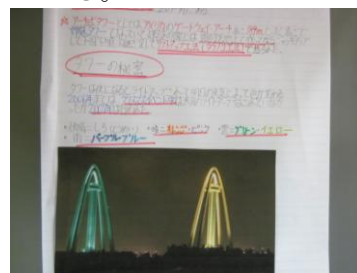
夏休み中に生徒に調べ学習を行わせた。課題を各自追究させ、簡単なレポートを書かせたところ、地域に関するさまざまなレポートが提出された。個々のレポートにより、地域の施設や歴史などについて、今まで気付かなかったことも再発見することができた。簡単な発表会を行ったが、今後調べた内容を学校のウェブページに掲載し、外部へ発信していきたいと考えている。



島文楽について



地元の神社について



138タワーについて

エ 他教科との関連

他教科との関連を図りながら、地域社会を見つめ直したり、日本全体に関わる、新たな課題を見つけ出させたりしたいと考えた。

(ア) 2年生の実践

2年生では稲作づくりの体験学習をもとに、社会科の時間で日本の農業の現状について調べ、日本や世界の食糧事情にまで迫りたいと考えている。また、道徳の時間との関連を図り、内容項目「郷土愛」や「愛校心」の資料を基に話し合い、地域を思う気持ちを育みたい。



道徳の授業の様子

(イ) 3年生の実践

地域を社会事象から見つめ直すだけでなく、自然事象の面から地域社会をとらえ直すことによって地域理解を深めるとともに、新たな課題を見付けさせたいと考えた。

3年生の理科の授業に身の回りの環境について考える単元があるため、土の中には小動物がどれだけいるのか調べたり、葉栗連区の空気の汚れを知るためにマツの葉の気孔の汚れについて調べたりした。



土の中の小動物の観察

土の中の小動物については、家の周りから採ってきた土を観察した。その結果、小動物が全く見つかることのできなかった土もあり、生徒からは、「土が汚れているんじゃないか」「雑草が生えていなかったから除草剤がまいてあったのではないか」などの意見が出された。

マツの葉の気孔の観察では、葉栗連区から班ごとにマツの葉を採取し、気孔の汚れについて予想を立てさせ、それぞれ気孔の観察を行わせた。交通量の多い場所では汚れているという意見が多かったが、予想よりも気孔の汚れは少なく、環境を汚さないために自動車のエンジンにも工夫がされているという意見も出てきた。



マツの葉の気孔の汚れ分布

また、葉栗の環境の様子から、名古屋はもっと汚れているのではないかと、採取した時期に138タワーでイベントがあったため交通量が増えて気孔が汚れたのではないかなど、環境についてしっかりと目を向けて考えることができた。継続して調べ、みんなにもっと知ってもらおうという意見があり、調査結果を分布図にまとめることになった。

5 研究のまとめと今後の課題

体験活動を軸としてESDを展開することは、地域社会に関する多くのテーマを設定することが可能となり、学校のある地域を理解し、再発見するのに大変有効であったと思う。行事としての体験活動であった「祝い餅づくり」に、ESDの視点を取り入れることにより、さまざまな要素が絡み合い、「伝統とは何か」という追究課題を設定することができた。そして、その後の地域調べの学習へとつ

ながら、生徒に調べさせたり、考えさせたりする活動を通して、地域理解へとつなげることができた。

今後の課題として、次の4点が挙げられる。

- ①学年・学校全体の年間計画や単元目標づくりの必要性
- ②課題を自らの問題として捉えさせる工夫
- ③評価規準の設定
- ④学校、地域との協力体制の確立

年間の計画については、年度の途中からの実践であったため、学校全体を巻き込んだ学習計画が立てられなかった。また、2学年の計画についても大まかな計画でスタートしたため、学習活動の目標が明確でなく、教科との関連をはっきりもたせることができず終わってしまい、1年を通した大きなテーマの設定がなかなかできなかった。平成25年度に向けて作成したESDカレンダー（p.87 資料4）をさらに検討し直し、身に付けさせたい能力や態度を明確にした上で、年間を見通した学習活動の関連を図ることが重要な課題であると考ええる。

また、さまざまな事象を自分自身の身近な問題として捉えさせることが十分にできなかった。そのため、活動に深まりがなく、能力や態度の育成についての評価も不十分であった。身近な問題と捉えさせるために、身近なテーマの設定だけでなく、話し合いの時間を十分に確保する必要がある。そして、話し合いをさらに深めるために、ポートフォリオを作成するなどの手立てが大切であると考えられる。

さらに、生徒に目標とする能力や態度が身に付いたかどうかを検証するために、評価規準を学校全体で話し合い、設定していくことが必要である。地域をどれだけ見つめ直すことができたのか、地域に対する思いがどのように変化したのかなどを把握するため、アンケートなどを準備する必要があると感じている。

そして、今までの実践を通して、持続可能な社会を築く取り組みについて、生徒にどのような力を付けることが必要であるのかを、現在設置されている「コミュニティースクール」の組織を活用し、学校だけでなく地域も巻き込んで考え、そのための具体的な手立てを学校・地域体制で確立していく必要があると感じた。

本研究は、3月まで継続することになるが、実践できていなかった学習を実践し、不十分であった学習を補足していきたいと考えている。「伝統とは何か」について話し合うことで、地域の人々の思いや願いが伝えられるのではないかと考えている。その願いが伝わった時に、本当の意味での地域理解につながり、地域への愛情や地域行事への積極的な参加が可能になるのではないかと思う。

<資料4> 平成25年度 第2学年 「葉栗を見つめよう」ESDカレンダー

教科等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	2月	3月	
総合的な学習の時間		苗田づくり もみまき	田植え	水の管理 除草	水の管理 除草		稲刈り	「伝統」について考える	祝い餅つき 祝い餅渡し	
上段・・・体験 下段・・・調査	「祝い餅づくり」 オリエンテーション 聞き取り、発表			地域調べ	地域調べ	地域調べ発表 外部発信(ウェブページ)				
学活		苗田づくり もみまき作 業手順の確 認	田植え・除草作業手順の確認 ケーブルテレビ視聴 地域調べテーマ決め				作業手順の確認			
社会科						「日本の農業調べ」 ・農業の現状と食糧問題				
理科						「動物の生活と生物の進化」 ・植物と動物の細胞の観察				
家庭科								「地域の食文化を知ろう」 ・地域の食材と調理、地産地消、 地域の食文化、郷土料理、行事食		
道徳						「七宝の里」(明るい人生) 4-(8)郷土愛		「校門を掘る子」(明るい人生) 4-(7)愛校心		
重視する能力・態度	・伝達 ・関連 ・参加	・協力 ・参加	・協力 ・参加			・多面 ・伝達 ・協力 ・関連 ・参加		・多面 ・協力 ・関連 ・参加		